

中央防波堤内側 海の森（仮称）構想

答申概要

第 1 章 海の森（仮称）の位置付け

1 位置

海の森（仮称）（以下、仮称を省略する。）の計画地は、中央防波堤内側埋立地の東側に位置し、面積は約 87.9 ha である。その大部分は、昭和 48 年から昭和 62 年にかけて区部で発生したごみ 1,230 万トンで埋め立てられた土地である。

2 上位計画等

計画地は、「東京港第 7 次改訂港湾計画基本方針」「東京らしいみどりをつくる新戦略」等における「水と緑のネットワーク」「海辺の回廊」形成の拠点として位置付けられている。

第 2 章 海の森構想の基本的な考え方

1 海の森がめざすもの

将来の東京が誇ることのできるような空間、未来の子どもたちに贈るべき貴重な緑豊かな公園を目指す。

そのため、周囲の海を活かしながら、自然や緑そのものに親しみ、楽しむことのできる個性的な公園として、幅広い都民の世代を超えた参加によって海の森づくりを進める。

海の森では、一公園の整備の枠を越え、都市が抱える環境問題、青少年の育成、持続可能な循環型社会への転換、都民や企業の社会的な参加などに対して、しくみづくりを含めた取組を行っていく。

こうした過程で、大人も子どもも環境、自然、社会とのかかわりを学んでいく。

海の森づくりは、「海を活かし、森をつくり、人を育てる」事業であり、21 世紀の社会のあり方を示す一つの源流になることを目指していく。

2 3つの基本的な考え方

（1）「自然環境の再生」の取組を進める

東京湾の埋立地において、広域的な水と緑のネットワーク及び海辺の回廊の拠

点として自然環境の再生に取り組む。

周囲の海を活用しながら、多様な植物や動物が息づくような森をはじめとした自然環境を再生し、都民が豊かな自然を享受できるように取り組む。

(2) 「活気ある個性的な公園」づくりを進める

より多くの利用者が訪れ活気ある公園とするため、立地やスケールメリットを活かして施設のあり方を考え、臨海部にある既存公園と同種の施設の導入を避けるなど個性化を図る。

森や海辺の生き物等とふれあうことができるような利用を図るとともに、自然豊かな季節感を感じ取ることができるようにする。また、公園づくりや公園の管理運営に楽しんで参加できるしくみを整えて、個性的な魅力としてアピールしていく。

(3) 「新しい事業手法の展開」により公園づくりを進める

都民や企業の社会参加・社会貢献への意欲の高まりに対して、自然環境の再生を目指す海の森を、こうした都民・企業の社会的な参加の場として位置付け、様々なニーズに合う多様な参加形態を展開していく。

そのため、都民をはじめとして、企業や NPO など幅広い主体と行政とが連携し、お互いの持つ知恵と力を組み合わせて、公園づくりや運営を行っていくなど、協働による新しい事業手法のしくみをつくる。

この3つの基本的な考え方を進める上で欠かせない視点を以下に整理した。

3 4つの視点

(1) リサイクルから進める

計画地は、かつてごみの島であったことと、現在、周辺にリサイクル施設や廃棄物処理施設が立地していることから、整備や管理において、まず、リサイクルに取り組んでいく。

さらに、雨水の有効活用や、自然エネルギーの活用をはじめ、持続可能な循環型社会の実現に向けた取組を行う。

(2) 自然環境を学ぶ

海の森の自然環境やその再生を進めていく過程で得られる多様な情報、周辺の廃棄物処理施設などを活用して、積極的な環境学習に取り組むとともに、それにかかわる人材育成を進めていく。

(3) ランドマークを形成する

計画地は、東京の空と海の玄関口に位置するため、航空機や船舶、臨海部の建物等からの眺望を考慮し、東京湾に浮かぶ大きな緑の森として、新たな東京のランドマークとなる空間整備を図る。観光資源としても活用する。

また、都民や企業、NPO等との協働による公園づくりや公園運営が、東京における自然環境再生や協働活動のシンボルとなるよう取り組む。

(4) 時間をかけて段階的に整備する

海の森づくりは、ドングリから苗木を育て、森へと成長させていくため、長期的な視点が必要である。また、より広範な参加による海の森づくりを継続的に行うため、世代を超えた取組が必要である。

こうしたプロセスを重視した海の森づくりを行うことによって、参加者一人一人の公園であるという意識や愛着を醸成していく。

長期にわたる段階的な整備の中で、後年度整備予定地も海の森のPRにつながるように有効活用を図っていく。

社会の変化や海の森へのニーズの変化に対応して適宜事業を見直し、改善していく。

第3章 海の森整備構想

1 計画条件と対応

計画地および周辺の諸条件を踏まえて、整備構想をまとめた。

ごみ埋立地であること、護岸への影響などを考慮し、現況地形を活かし大規模な造成は行わない。

現況地形は、「低地部」「斜面部」「台地部」の3つに区分される。「低地部」は海との関連性を重視した整備を、「斜面部」は海の森の自然を支えるための整備と外部からの景観を意識した整備を行う。「台地部」は平坦な空間を活かした整備を図る。

計画地の環境条件である海からの強い風に対応できる植栽計画を行う。

台地部外周に土塁を形成して風の影響を弱め、利用の快適性と樹種の多様性を確保するとともに地形や景観に変化を持たせる。

植栽基盤となる土壌は、剪定枝葉のリサイクルにより生成される堆肥を用いて土壌改良を図る。

淡水から海水に至る水系を形成し、海辺（浅場、磯浜、汐入の池）、草地、林、森等を配置するとともに、多様な生き物が生息できる環境を整える。

路線バスや海上バス等の公共交通機関によるアクセスの向上を図る。

2 ゾーニング

地形、風、利用と保全などの条件を踏まえ、計画地内の斜面地は防風機能を有した常緑樹主体の「風の森」とし、この「風の森」に囲まれた台地中央部に「つどいのくさ原」「ふれあいの林」「観察と保全の森」の3つのゾーンを配置する。

また、臨海道路や海からの交通動線を考慮し、計画地南側に入口、管理・サービス拠点、駐車場などの「サービスエリア」を配置する。

さらに、計画地の東側から南側にかけては、「観察と保全の海辺」と「ふれあいの海辺」を配置し、人と生き物と海との接点を創出する。

第4章 海の森における新しい事業手法の展開

海の森づくりは市街地から離れた埋立地での事業であり、東京都を代表する大規模な公園となることから、地域を越えて、より広範な都民、企業、NPO等の参加を求めて継続的に協働事業を進めていく必要がある。そのための組織体制や参加のしくみをつくっていく。

1 協働の原則

役割分担の明確化

協働参加者と東京都は役割分担を明確にし、協働事業を展開していく。

進化発展する協働のしくみづくり

初期は東京都が協働事業を先導し、徐々に協働参加者の自主性を拡大していく。試行、軌道修正しながら、独自のしくみへと進化させていく。

海の森をつくり、育て、守り続けるしくみづくり

世代を超えた森づくりを支えるために継続する協働のしくみをつくっていく。

公平性・公開性を確保したしくみづくり

特定の参加者による偏った運営が行われないよう公平性、公開性を確保する。

拡大するネットワークづくり

様々な都民、企業、NPO等の参加や交代が繰り返される柔軟な体制を継続し、様々な主体とのネットワーク形成、人や組織の育成、外部への波及などの効果を期待する。

2 協働のための組織体制

東京都は、「実行委員会」方式による植樹祭を順次開催しながら、植樹祭に参加した都民、企業、NPO等に対して、継続して活動を行う「実行グループ」づくりを働きかけ、さらに、複数の実行グループからなる「協働活動組織（グループ連絡会）」の形成を促し、自主的な運営に向けた組織化を支援し、育成していく。

グループ連絡会と東京都が対等なパートナーという位置付けの下に、協働活動の計画や実施などについて協議、調整を行う場として「協議会」を設ける。

さらに、公平な見地からアドバイスする「アドバイザー会議」を設ける。

こうした協働活動やその組織化には、広範で多様な参加者の融合、自律的な活動の推進、調整仲介など重要な役割を担うコーディネーターを配置する。

3 海の森楽校（がっこう）（仮称）の展開

海の森の自然を理解し、森を育てていくために必要な知識、実践を踏まえた協働活動の運営方法などを習得するための場として海の森楽校（仮称）を設け、環境学習や人材育成の取組を総合的に展開していく。

4 海の森協働活動へ多くの賛同を得るための方策

広範な人々の賛同（参加・支援）を得るための方策を協働活動として展開していく。

不特定多数の人々に、海の森を知ってもらい、好感を持ってもらえるよう認知度を高めていく。さらに、協働活動の社会的意義や活動成果をアピールし、信頼性や健全性を印象付けていく。

また、資金、資機材の提供など支援の意向を持つ人々をサポートとし、海の森の情報を提供して、協働活動への支援と参加を呼びかけていく。

第5章 海の森事業の進め方

1 整備の手順

整備期間を概ね30年程度と想定し、段階的に整備、利用を進めていく。大まかな整備の順序は、以下のように想定する。

最初に、防風を目的とした南側斜面の植樹、台地部外周の土塁の構築及び植樹を進める。

次に、台地部の「観察と保全の森」「ふれあいの林」の森林形成を進めるとともに、来園者のための施設整備を進める。

最後に、「ふれあいの海辺」等の海辺周辺及び移転施設跡地の整備を行い完成させる。

2 海の森のパークマネジメント

海の森の事業は、都民、企業、NPOなどの参加を得ながら公園整備の初期から植樹を中心とした協働活動が行われ、さらに、段階的な整備の進展に伴い協働活動も発展するとともに、一般利用者へのサービス提供、維持管理などが相互に関連しながら並行して進められる。

限られた資源を有効に活用し、よりよい事業展開がされるよう、経営的な発想で総合的に管理（パークマネジメント）し、長期的に継続させて海の森事業を進めていく。